



平成30年度 水稻生育診断情報 No.2

(平成30年6月28日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今回は7/9頃の予定)

現在の生育状況

- ◎作況調査では、草丈はかなり短く、茎数はかなり少ないが、県内ほ場では、全般に概ね平年並の生育となっている。ただし、移植日やほ場条件により生育の差が大きい。
- ◎5月上旬移植の「みずかがみ」では、6月26日頃に幼穂形成期を迎えている。
- ◎5月10日移植の「コシヒカリ」では、幼穂形成期は7月5日頃と予測される。

管理のポイント

- ◎穂肥の施用にあたっては、必ず幼穂を確認して、適期に適量を施用する！
- ◎茎数過多となっているほ場では、倒伏や玄米の品質低下が心配されるので、生育に応じて、穂肥時期・量を調整する！
- ◎出穂期前後各3週間は常時湛水を行う！

※農業技術振興センターのホームページ「みずかがみ」コーナー、facebookもご参照ください。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

期間	要素	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	6月	上旬	平年並	やや高い	多い
	中旬	低い	低い	平年並	平年並

(2) 地温、土壌窒素の推移

- 日平均地温は、5月中旬以降高低の変動はあったものの、平年よりやや低かった。
- 6月10日時点の土壌中アンモニア態窒素量は、平年並(無窒素区で1.0mgN/100g)であった。

(3) 近畿地方1か月予報【大阪管区気象台6月21日発表】

- 平年に比べ曇りや雨の日が少ない。
- 向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%。
- 日照時間は、平年並または多い確率ともに40%。
- 週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%。2週目は、高い確率50%。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%。

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査(6月20日時点)による。表1および後掲グラフ参照。】

- 早生品種: 「みずかがみ」、「コシヒカリ」 中生品種: 「秋の詩」
- 活着が遅れたことに加え、還元障害が強く出たため、生育が抑制された。
- このため、過去5年平均に比べて、草丈はかなり短く、茎数はかなり少なかった。
- 葉数は、過去5年平均並～やや少なかった。

※現在の作況調査の生育状況は、県内の5月上旬移植の生育に比べて、かなり劣っているとみられるので、数値を参考にされる場合はご注意ください。



「みずかがみ」



「コシヒカリ」



「秋の詩」

表1 平成30年(2018年) 水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	較差	前年
5/31	みずかがみ	22.1	24.1	92	22.7	118	185	64	191	—	—	—	—	6.1	6.1	0.0	5.9
	コシヒカリ	22.9	25.0	92	24.8	131	166	79	175	—	—	—	—	5.3	5.8	-0.5	5.9
	秋の詩	20.3	20.9	97	21.3	218	245	89	243	—	—	—	—	5.7	5.6	0.1	5.9
6/10	みずかがみ	32.3	32.4	100	26.3	267	370	72	277	42.4	41.5	102	37.1	8.3	8.1	0.2	7.6
	コシヒカリ	31.2	30.9	101	26.8	262	341	77	281	42.4	40.7	104	37.1	8.0	7.7	0.3	7.4
	秋の詩	25.0	26.3	95	23.9	367	457	80	372	41.5	41.6	100	36.8	7.6	7.4	0.2	7.3
6/20	みずかがみ	36.9	45.8	81	37.5	410	584	70	616	39.3	42.2	93	40.2	9.5	9.7	-0.2	9.3
	コシヒカリ	38.1	45.5	84	39.7	433	595	73	635	39.9	42.3	94	43.1	9.3	9.4	-0.1	9.1
	秋の詩	30.2	39.1	77	31.6	497	737	67	788	39.4	43.3	91	43.1	8.6	9.0	-0.4	8.9

移植日は5月10日(播種日:4月20日)。「みずかがみ」、「コシヒカリ」は栽植密度18.5株/m²、植付本数3本/株。
「秋の詩」は栽植密度:22.2株/m²、植付本数:4本/株。

表2 水稲作況調査 生育ステージ

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

「みずかがみ」

生育ステージ	本年	H25-29	較差	前年
幼穂形成期	未	6月29日	—	6月29日
出穂期	未	7月22日	—	7月23日

「コシヒカリ」

生育ステージ	本年	H25-29	較差	前年
幼穂形成期	未	7月3日	—	7月2日
出穂期	未	7月27日	—	7月25日

「秋の詩」

生育ステージ	本年	H25-29	較差	前年
幼穂形成期	未	7月15日	—	7月11日
出穂期	未	8月9日	—	8月6日

移植日は5月10日(播種日:4月20日)。「みずかがみ」、「コシヒカリ」は栽植密度18.5株/m²、植付本数3本/株。
「秋の詩」は栽植密度:22.2株/m²、植付本数:4本/株。

3 今後の管理

(1) 生育に応じた穂肥の施用

- 幼穂形成期の生育に応じて、穂肥の施用時期および施用量を調整する。登熟期における栄養不足を回避するため、適期に必要な量を確実に施用することが重要である。
- 3か月予報では、幼穂形成期以降、高温が予想されている。籾数過多は白未熟粒発生の主要因となるため、穂肥の適正な施用はこの点からも重要である。
- 基肥－穂肥体系の「みずかがみ」では、幼穂形成期(出穂 25 日前＝幼穂長 1mm)に 3 kgN/10a の施用を基本とする。なお、大豆跡の場合は、半量以下を目安とする。
- 「コシヒカリ」では、幼穂形成期 7 日後(出穂 18 日前＝幼穂長 1 mm 確認 7 日後)と 14 日後(出穂 11 日前)の分施肥体系を基本とし、幼穂形成期の生育が標準量であれば、1 回目と 2 回目の施用量は均等分施 (2 kgN/10a×2 回、「2－2 体系」)とする。ただし、幼穂形成期の生育が標準量を超えた場合、籾数過多による品質低下が心配されるため、2 回目の穂肥施用に重点を置き、1 回目に 1 kgN/10a、2 回目に 3 kgN/10a の分施肥体系(「1－3 体系」)とする(表 3)。
- 「秋の詩」については、幼穂形成期(出穂 25 日前)と 7 日後(出穂 18 日前)の 2 回分施肥を基本とするが、倒伏が心配される(葉色が濃く、株張りが大きい)場合は、穂肥の施用を幼穂形成期から 1 週間遅らせ、出穂 18 日前と 11 日前に分施肥する。

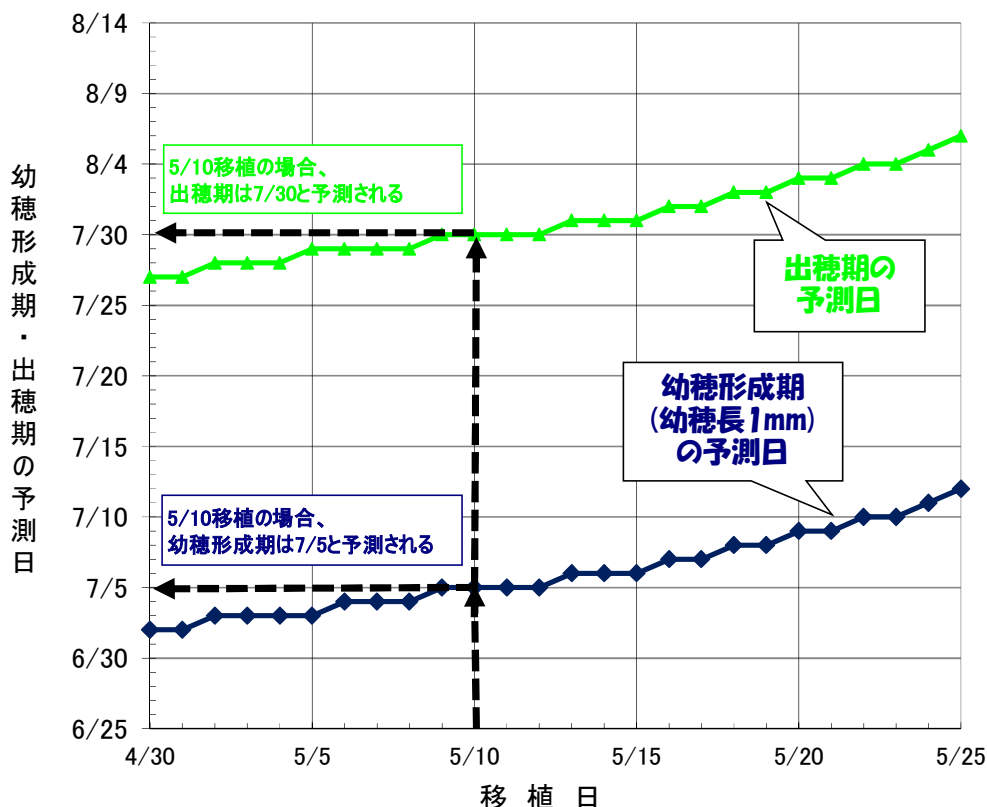


図 1 「コシヒカリ」の幼穂形成期(幼穂長 1mm)および出穂期の予測日

(Web 水稻生育予測システムによる予測：近江八幡市安土町大中、6/26 時点)

【グラフの見方】

(例) 5/10 移植の場合、幼穂形成期は 7/5、出穂期は 7/30 と予測される(点線矢印参照)。

※農業技術振興センター作況調査における「コシヒカリ」の幼穂形成期の平均値(過去 5 年間)は 7/3。

(注) ○6/26 までの生育状況に基づく予測で、今後の気象によって前後する。特に、移植日が遅い場合は誤差が大きい。

○近江八幡市安土町より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる。

表3 「コシヒカリ」の穂肥施用基準

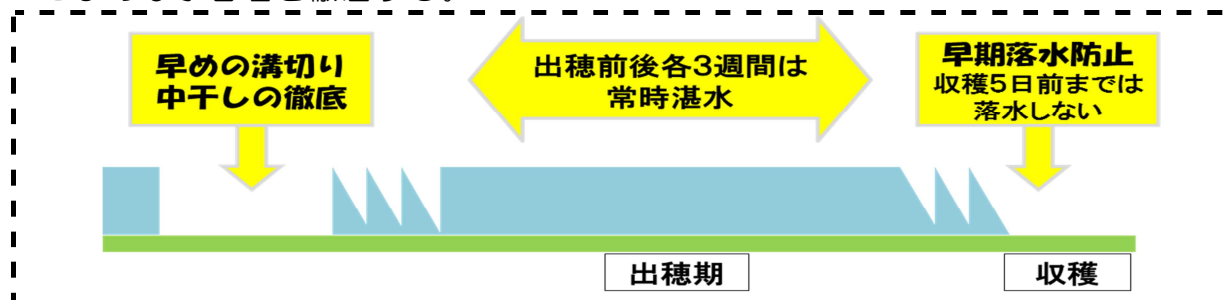
幼穂形成期の生育状況			穂肥施用方法(施用量の単位は10a当たり窒素量)
株張り (60株/坪植の 茎数)	葉色		
		葉緑素計値 (葉色板値)	
大 (25本/株以上)	濃	35(3.8)以上	出穂18日前に2kg、出穂11日前に2kg施用
	淡	35(3.8)未満	
標準 (20~25本/株)	濃	35(3.8)以上	
	淡	35(3.8)未満	
小 (20本/株以下)	濃	35(3.8)以上	出穂20~21日前に2kg、出穂13~14日前に2kg施用
	淡	35(3.8)未満	

(2) 適正な水管理

《出穂前後各3週間の常時湛水》

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成を行うことができず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う。
- 湛水管理はカドミウムの吸収抑制にも有効である。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



(3) 病虫害防除

6月19日発表の「病虫害発生予報第5号」

(<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/yoho/yoho30/yoho05.html>)を参照

予報第5号より抜粋

葉いもち(発生時期:平年並、発生量:平年並)

- ① 余剰苗周辺から発生しやすいので、余剰苗を早急に処分するとともにほ場をよく見回り、発病に注意する。
- ② 移植栽培では、いもち病に有効な長期持続型の薬剤を育苗箱に施用、または移植時に側条施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低い。
- ③ 直は栽培では、いもち病に有効な長期持続型の薬剤を、は種同時施薬機を用いて土中施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低い。
- ④ 多肥田や晩植田、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「秋の詩」、「滋賀羽二重糯」では特に発生しやすいので注意する。

- ⑤ほ場をよく見回り、発生を認めたら薬剤を散布する。なお、例年いもち病の発生が多いほ場では、発病前に粒剤を散布する。
- ⑥耐性菌を生じやすいので、穂いもちの防除も考慮して同一グループ薬剤の連用を避ける。

紋枯病(発生時期:平年並、発生量:平年並)

- ①前年発生の多かったほ場では特に注意する。
- ②防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂 20 日前の発病株率が 15～20%以上。
- ③生育の旺盛なほ場で発生が多いので注意する。
- ④病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

斑点米カメムシ類の防除について

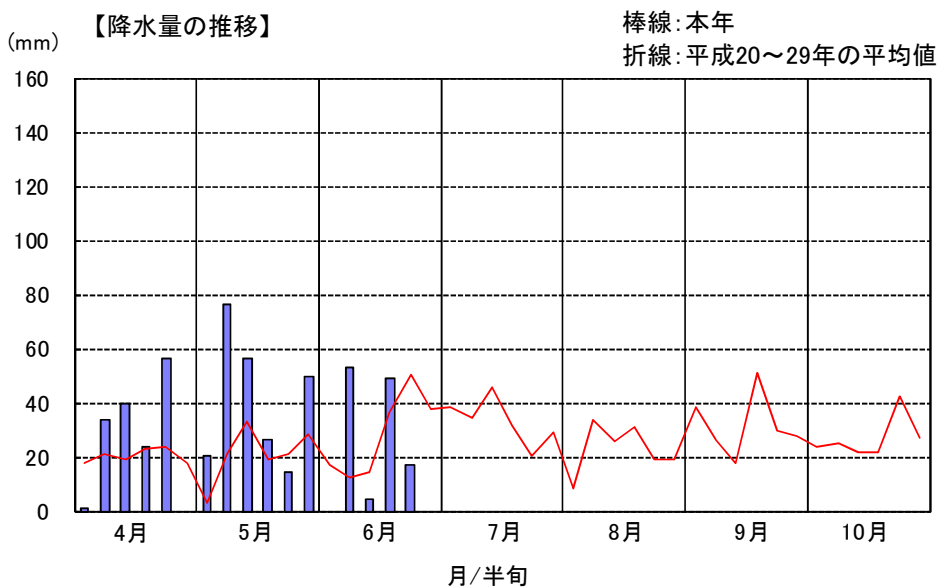
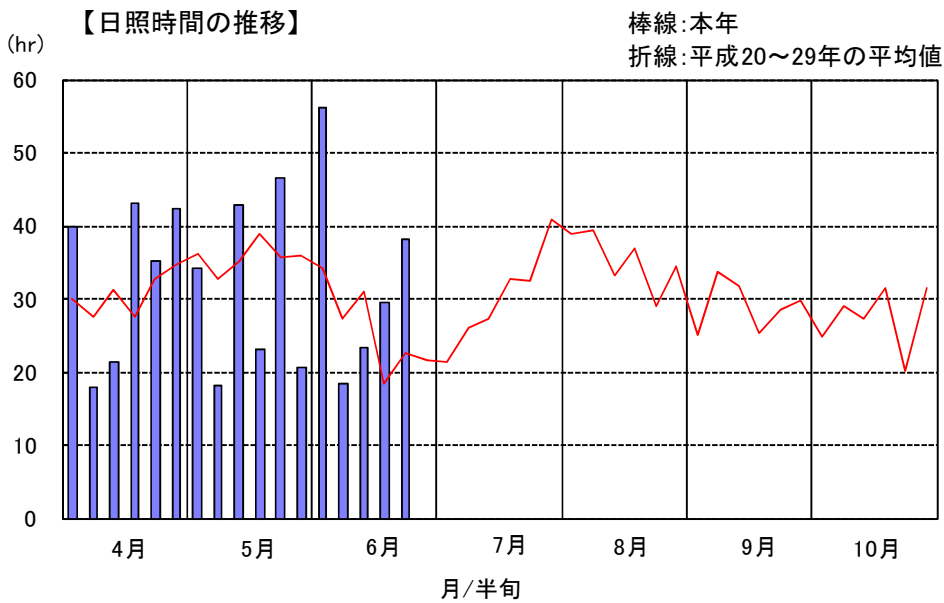
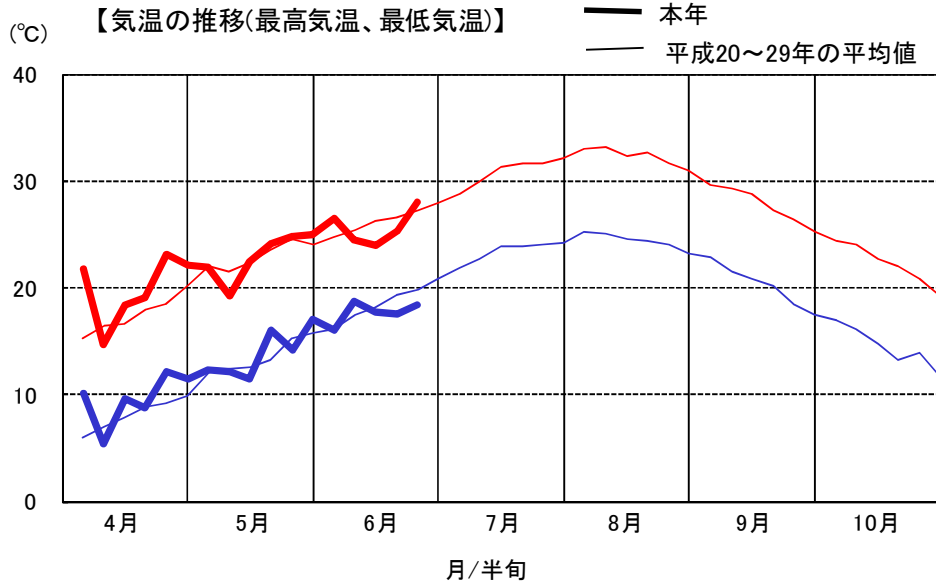
防除上注意すべき事項

- ①イネの出穂 2～3 週間前と出穂期の畦畔 2 回草刈りは効率的である。なお、畦畔雑草地などの除草を 7 月上旬に広域的に行った場合、その後も畦畔雑草地のイネ科雑草が出穂しないように適正に管理する。
- ②水田内にヒエなどのイネ科雑草が生えている場合は、速やかに除去する。

【参考サイト】

農業技術振興センター	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/
農技 C (Facebook)	https://www.facebook.com/254582198473200
病虫害防除所	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/
彦根地方气象台	http://www.jma-net.go.jp/hikone/
異常天候早期警戒情報	http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

平成30年(2018年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

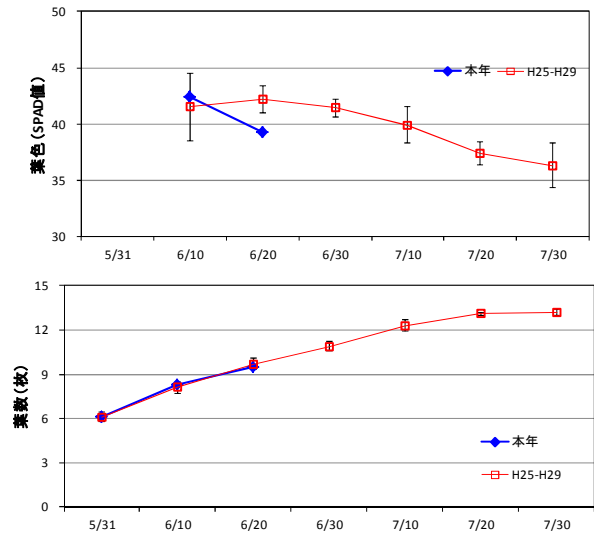
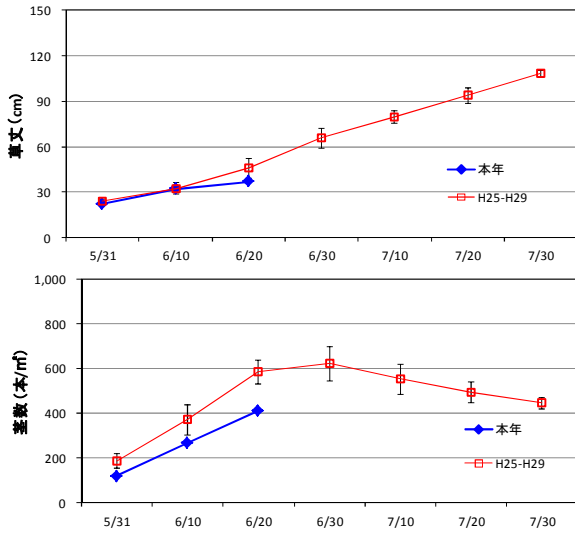


注) 平年は平成20~29年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

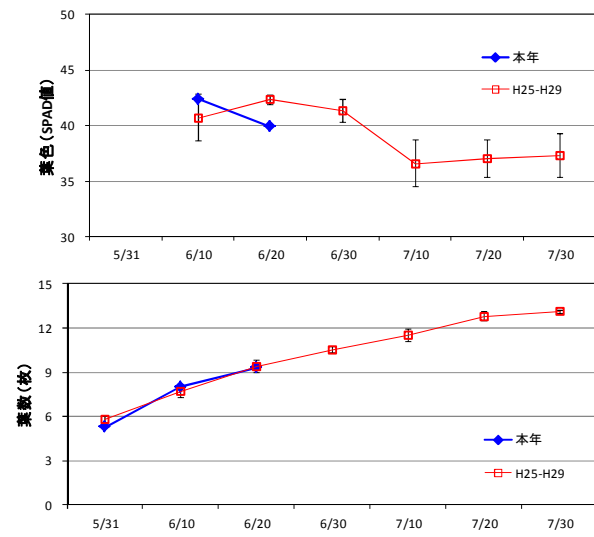
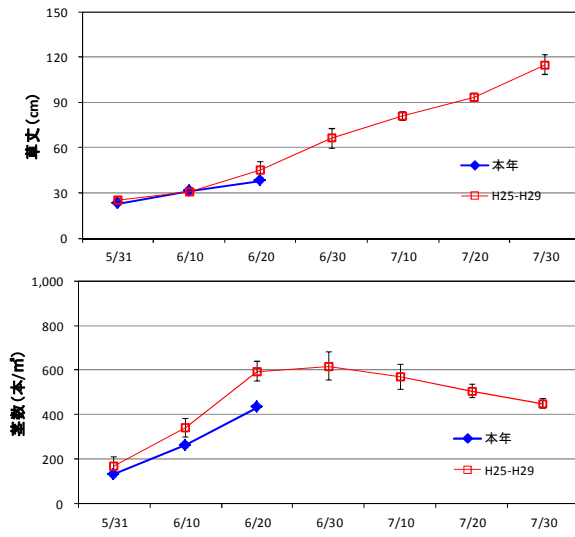
平成30年(2018年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

【みずかがみ】 播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



【コンヒカリ】 播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



【秋の詩】 播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 22.2株/m²、植付本数: 4本/株

